



Title	保健文化賞に輝く 大阪府衛生婦人奉仕会
Author(s)	
Citation	大阪公衆衛生. 1967, 19, p. 22-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84429
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

保健文化賞に輝く

大阪府衛生婦人奉仕会

衛婦誕生のいきさつ

第2次世界大戦によって、わが国の公衆衛生思想は極度に低下し、衛生関係施設もまた著るしく老朽化してしまっ

た。戦後、国民の公衆衛生に対する関心も次第に高まり、昭和24年には「蚊とハエをなくする運動」あるいは「母子衛生活動」を中心とした地区組織活動が各地ではじまり、全面的にひろがっていった。

このようなとき大阪府では、昭和25年に吹田母子の会、豊中母子の会が家庭の主婦の手で発足したのを手はじめに池田市、箕面市と次々に府下の市町村に地区組織が生まれ、身近な衛生問題等を取り上げて実践活動を展開しだした。

大阪府衛生婦人奉仕会は、昭和29年9月当時府下127市町村ごとに組織されていた地区組織が母体となって誕生した。

以来「健康な家庭と、明るく豊かな大阪を主婦の手で」を合言葉に公衆衛生の各分野にわたって実践活動を展開してきたが、さらに、組織の強化発展を願って、昭和40年4月1日法人に組織替えをし、社団法人大阪府衛生婦人奉仕会を設立した。会員15万名、地域保健所および市町村衛生部局と緊密な連繫をとりつつ公衆衛生の改善向上を図っている。

・実践活動の歴史

昭和29年の設立当時には主婦の立場から家族計画の普及、受胎調節の指導等といった活動から出発したが、昭和31年には結核予防、寄生虫予防、食生活改善等の活動を加え、さらに、昭和32年には、「蚊とハエのいない実践活動」ならびにゴミ減量運動等の環境改善問題を取り上げ実践活動を強力に推進し、今日なお継続実施している。

昭和36年「小児マヒ」の流行のときは、ゴキブリ撲滅実践活動を展開し、大きな効果を上げたことはご存知のとおり。

以上のように初歩の公衆衛生活動から出発して年と共に高度化、広域化し、最近では、成人病予防、精神衛生事業等に協力し、とくに婦人ガン検診では早期発



見、治療につとめ地区住民から感謝されている。

本年度は、性病流行の現状から性病予防を加え目下着々と事業計画が進められつつある。

・主婦の手に握りしめられた保健文化章

以上のように、10年余の歴史がみのり昨年8月第18回保健文化賞を受賞した。

受賞の業績には「大都市における主婦を会員とした地区組織で総合的な公衆衛生活動の展開」と記載されている。

衛婦活動の歴史とその実績をみれば、当然の受賞ともいえるが保健文化賞を手握った会員の喜びは大きかった。

長年の苦勞が榮誉ある保健文化賞受賞という形で高く評価された喜びと共に自信と希望が与えられたのである。

しかし、手離しで喜ぶことはできない。組織が大きいだけに内部に入るとまた、それなりの悩みも多い。うつりかわる社会情勢と公衆衛生の質的、構造的な変化はこれからも組織活動に課せられる問題は限りなく続くことであろう。

世紀の万国博覧会も3年後に迫り、全国注視の中で主婦による公衆衛生ボランティア団体「衛婦」の今後の活動は大いに期待される。